

症例報告／事例報告

イギリスにおける知的障害看護師の活動と 知的障害のある親への支援 —知的障害者支援センター，知的障害者 支援慈善団体，NHS 病院への訪問調査—

杉 浦 絹 子^{*1}

要 約

本稿では，2019年3月に実施したイギリスの知的障害看護に関する現地調査より得られた知見と関連する web 上の情報から，知的障害看護師の活動と当事者からの評価，知的障害のある親への周産期における支援システム，知的障害者支援の慈善団体の活動，知的障害看護学の現状について記述した．国内の知的障害に配慮した保健医療の提供に資する学際的研究を進めていくことが今後の課題である．

1. 緒言

わが国では，2016年に改正障害者総合支援法および障害者差別解消法が施行され，ソーシャル・インクルージョンの理念の下，障害者福祉サービスの充実・向上を目指した取り組みが実施されている．自分の意思で結婚し子どもをもつことは，障害の如何にかかわらず保障されるべき基本的人権の一つである．これは障害者権利条約第23条に掲げられているとともに，女性の人権擁護の視点からのリプロダクティブ・ヘルス/ライツでもある．リプロダクティブ・ヘルス/ライツは1994年のカイロ人口開発会議で公式に定義され，翌年の北京第4回世界女性会議でその重要性が示された権利である．しかし現実には，障害者の婚姻率は非障害者よりも低く，知的障害者では特に低い¹⁾．その一方で，結婚願望をもつ知的障害者は多く¹⁾，必要な支援が得られれば結婚生活と育児が可能であることが報告されている^{2,4)}．

周産期には女性とその家族の保健医療ニーズが高まる．筆者は，「知的障害に配慮した周産期保健医療現場における支援」に関する研究の一環で，2019年3月にイギリスを訪問し，国民健康サービス（National Health Service: NHS. 以下 NHS と記す）

知的障害者支援センターの知的障害看護師，NHS の病院の産科に勤務する助産師，知的障害のある親の支援の慈善団体のリーダー，知的障害者支援の慈善団体のメンバー，知的障害看護学の大学教員へのインタビューを行った．

本稿では，イギリスにおける知的障害看護師の活動と当事者からの評価，知的障害のある親への周産期における支援システム，知的障害者支援の慈善団体の活動，知的障害看護学の現状について，関連する文献および web 上の情報を交えつつ報告する．

2. 結果

2. 1 Learning Disability^{†1)} Nursing と Learning Disability Nurse

イギリスで看護師になるためには，成人看護学，小児看護学，精神看護学，知的障害看護学の4つの看護専門分野のうち1つを選択して学び，学位を取得する必要がある⁵⁾．知的障害看護師（Learning Disability Nurse：以下一部を除いて LD Nurse と記す）は，知的障害（Learning Disability：以下一部を除いて LD と記す）のある人々が自立して充実した生活を送ることを支援する専門職であり，地域

*1 名古屋女子大学 健康科学部 看護学科

（連絡先）杉浦絹子 〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

E-mail: ksugiura@nagoya-wu.ac.jp

や病院、LDのある犯罪者支援の専門施設等で働いている⁵⁾。LD Nursingは2019年時点で100年の歴史をもつが、初期の様相は今日とはかけ離れており、LDのある人々を施設内で管理するものであった。

2.2 地域の Learning Disability センターで働く Learning Disability Nurse

イギリス中部の南ヨークシャー州、バーンズリーのケレスフォースにあるNHSのBarnsley Primary Care Trust, Learning Disability Service, Kerethforth Centreを訪問した。このセンターはかつて知的障害者の収容施設であったが、15年ほど前に収容施設を閉鎖し、自宅やグループホームで生活する知的障害者の自立生活支援の機能を担うようになったという。

2.3 Learning Disability Nurse の実践

このセンターのLD NurseのK氏へのインタビューで語られた内容を記述する。

このセンターには、看護師、ソーシャルワーカー、精神科医、心理士、作業療法士、言語聴覚士が常駐し、栄養士は管轄地域をカバーするかたちで関わっている。常時連携して仕事をするのはソーシャルワーカーと精神科医、心理士である。LD Nurseとしての仕事は、子どもから大人までのLDのある者の健康に関わる支援である。妊娠した女性がいれば、適した病院に紹介し、妊婦がそこで聞いたことを理解できているか、病院とのやりとりができていのかを確認すること、さらに子どもが生まれた後には、LDのある親たちが子どもを安全に育てることができているかを見守る。これまで多くのLDの母親の支援に携わってきたが、LDのボーダーラインの女性が多く、担当したケースには、4人の子どもの子育てをする母親が、ソーシャルケアによって子どもを措置されたケースがあった。子どもが家庭に残った場合には、母親が子どもの面倒をみているというより子どもが親の面倒をみている、というように、立場が逆転しているようなケースもよくみられる。ボーダーラインの女性に多いことには、mental capacity^{†2)}が低いために性被害に遭う、性行為に対する自分の意思を表示できないままに妊娠してしまう等があり、ソーシャルケアにより子どもが措置されるケースは多い。平時には特別な支援を要せずうまく生活ができていても、妊娠をきっかけに生活が回らなくなってしまうことが多いため、そういったケースも支援している。

2.4 子どもが健やかに育つ権利を重視したアセスメント

このセンターの実践の焦点は、子どもが健やかに育つ環境を整えることであり、そのためには何より

親の mental capacity のアセスメントが重要である。親の mental capacity をアセスメントすることにより子どもの権利を守るという考え方が基盤となっている。子どもの体重増加が極端に少なかったため、子どもを4日間病院に入院させたところ体重が増えたケースでは、その母親に mental capacity がないという判定となった。

2.5 知的障害の診断のためのアセスメント

(Learning Disability Diagnostic Assessment)

イギリスでは、子どもと家族法2014 (The Children and Families Act 2014) をはじめとした関連する法律に基づき、保健、教育、社会福祉サービスの場において、乳児から25歳までのすべての人を対象に、LDや自閉症の有無と特別支援教育の必要性をアセスメントすることになっている⁶⁾。LDの有無を診断するテストは、能力に関するテスト (an abilities test)、社会機能に関する質問 (a social functioning questionnaire)、精神的健康に関する質問 (mental health questions) の3つから構成される。標準化されたアセスメントシートがセンターのイントラネット上に設定されており、LD Nurseは入手した情報をイントラネット上のデータシートに入力する。これにより多職種間で情報を共有することができる。

2.6 NHS St Mary's Hospital での知的障害のある親への対応

ロンドンのウエストミンスター市のパディントンにあるNHSのSt Mary's Hospitalの一部であるQueen Charlotte's and Chelsea Hospitalの産科に勤務する助産師へのインタビューを行った。この病院では年間6,000件の分娩がある。助産師は妊娠期から産褥28日までのケアに携わり、自宅訪問も行う。日本とは異なり、経膈分娩、帝王切開のどちらの分娩様式とも異常がない場合には産後翌日あるいは翌々日に退院するため、退院翌日から必要に応じた回数、自宅を訪問し母子のケアを提供する。

妊婦の初回の健診時に、標準化された患者情報アセスメントシートの各項目について順に入力をしていく。その中に、vulnerabilityに関する質問として、mental health、外国人、ホームレス、障害という項目に該当するか否かをチェックする欄があり、本人に尋ねるという。本人が該当するか否かを隠すというようなことは少ない。イギリスはかかりつけ医 (general practitioner: GP) 制を採っており、妊娠を疑えば、まずかかりつけ医に相談することになっている。LD妊婦の場合、通常学齢期に診断されていることを含め、患者情報はかかりつけ医から病院に送られているためである。Queen Charlotte's and Chelsea Hospitalには安全保護チー

ム (Safe guarding team) とケース対応チーム (Case loading team) とがあり、どちらにも助産師がメンバーとして配置されている。安全保護チームはソーシャルケアと連携し子どもの虐待防止を目的に活動している。ケース対応チームは、妊娠中に発見されたハイリスク妊婦の継続的ケアによる成果を重視するため、妊娠期から関わる妊産婦のみに対応している。すなわち、分娩時に発見されたハイリスク産婦のケアをケース対応チームが行うことはない。分娩期に発見されたハイリスク産婦へのケアは担当助産師が行う。すべての助産師には社会的ハイリスク妊産婦への十分なケア能力があるとの評価がされていることが要因の一つであると語られた。

以上が NHS の病院産科病棟で勤務する助産師の語りであるが、後述する知的障害者支援の慈善団体 Mencap によれば、2017年3月に医療者506人（内訳は71%が看護師、14%が医師）に実施された調査では、23%は LD について学習した経験がなく、66%が LD について学習する機会を望んでいるとの結果であった⁷⁾。今回、インタビューに応じてくれた助産師は、看護師の資格を有する助産師であり、小児看護学領域で看護学の学位を取得したが、看護師教育においても助産師教育においても LD に特化した授業科目を履修した経験はなく、また卒後に LD に関する学習の機会を得た経験もないと語った。

2. 7 知的障害者支援の慈善団体

2. 7. 1 知的障害のある親への支援の慈善団体 Change の活動

Change はイギリス北部の西ヨークシャー 州の都市リーズに所在する LD のある親支援の慈善団体である。この団体の代表であり LD 当事者でもある C 氏へのインタビュー内容を以下に記述する。

行っている活動は、LD のある親からの相談と対応、LD のある人々について社会の理解を促すための研修や講演、政府へのロビー活動、LD に配慮した読みやすい表現で書かれた“easy read”あるいは“easy-to-read”と標される教材の開発と販売である。設立当初、LD のある子どものための慈善団体だと間違われ、2005年のカンファレンスの際には、勘違いした人々が殺到したため、LD のある大人のため団体であると宣伝した。開発した教材には性教育教材、妊婦向け教材、乳幼児の育児方法に関する教材、コミュニティでの自立生活のための教材等がある。Change は、① LD の人々が理解できるようにコミュニケーションをとること、②サポートを望むすべての LD の親が十分なサポートを受けられるように支援すること、③ LD の親が自分たちができることを明確に示すことができるようにサ

ポートすること、④長期間のサポートを提供すること、⑤ LD の親が自立して育児ができるようにサポートすること、の5つの目標を掲げて活動している。LD のある母親が一番恐れている存在は子どものソーシャルワーカーだが、それはソーシャルワーカーが子どもを措置する権限を持っているからである。LD のある母親が子どもを措置される理由の多くが、虐待、ネグレクトである。虐待、ネグレクトとは、どのような行為を指すのかわかるような丁寧な説明がないまま、出産を迎える LD の女性が多い。Change の活動では、LD のある親が理解できるように、開発した教材や当事者の体験談を交えて具体的に丁寧に説明している。

LD のある親が虐待のために子どもを措置され、親権を争う裁判の最初のミーティング (care proceeding meeting) には、ソーシャルワーカー、親、子どもの権利の代弁者、弁護士等が参加する。裁判に関する資料の easy read 版が用意されていない地方の裁判所において、LD の親が自らの主張を伝えることは非常に困難である。そもそも、財政難の地方では easy read 版の裁判資料が作成されていないため、LD のある親たちは資料を理解できない。

今日、イギリスの地方政府は財政難であり、Change 他の慈善団体が easy read 版の教材を作成しても購入してもらえないため、ニーズのある人々に行き渡っていないという。

2. 7. 2 知的障害者支援の慈善団体 Mencap の活動と LD Nurse、NHS への評価

Mencap は国連の障害者権利の活動にも大きな影響力をもつイギリスを代表する LD 当事者支援の慈善団体である。ロンドンの中心地に事務所を構えている。Mencap は現在、“Treat me well”キャンペーンを展開している。Mencap がこのキャンペーンを紹介した冊子⁷⁾には、これまでの取り組みが次のように紹介されている。2007年に NHS の病院において LD のある患者6人が死亡し、それは医療者によるネグレクトに起因するもので、避けることができた死であった。Mencap はこれを報告した“Death by indifference”を発行し、“Death by indifference: a crucial health”キャンペーンを展開した⁷⁾。これを受けて2010年に200の NHS トラストと機関が、すべての病院に LD リエゾン Nurse を配置するという Mencap による“Getting it Right Charter”キャンペーンの公約に署名した⁷⁾。さらに Mencap は2012年に、内容をアップデートし、NHS 病院での74人の LD のある者の死を報告した“Death by indifference: 74 deaths and counting”⁸⁾を発行した。

LD 当事者で“Treat me well”キャンペーン・リーダーの K 氏, LD 当事者でメンバーの N 氏, 非障害者でキャンペーン・マネージャーの J 氏がインタビューに応じてくれた。彼女らは, NHS 病院の LD Nurse を自身や周囲の者の経験を通して高く評価していた。以下に K 氏の語りを示す。

自身の経験を通して, かなりの人数の LD Nurse を知ったが, LD Nurse は大きな貢献をしてくれていると思う。印象的なケースとして, 外科医が LD のある患者に手術の説明をしたが理解されず, 患者が手術を拒否したケースがあった。外科医は患者が手術を拒否したため手術はしないという決定をした。その直後 LD Nurse がその患者に手術のプロセスをわかりやすく説明し, 手術室に連れて行き, その手術の手技を見せながら説明し, 結果についても説明したところ, その患者は理解ができ, 手術をしてほしいという同意が得られ, 手術をすることができた。手術をしない場合には死亡したかもしれない病状であったため, その LD Nurse は素晴らしい活躍をしてくれたと感謝している。また, LD Nurse の大切な役割として, 他のスタッフの教育がある。病院内で勉強会を開催し, LD に配慮した医療の提供について教育している。LD Nurse の貢献は大きく, とても感謝している。

J 氏は, LD Nurse の貢献について, さらに次の内容を語った。よい LD Nurse がいるかどうかは, その病院にとって, とても大きなインパクトを与えていると思う。LD Nurse として患者に対応するだけでなく, 病院のスタッフに院内教育をするなどの教育的活動に加えて, この病院には LD Nurse が少ないので採用したほうがよいと政策決定機関に働きかけるといような, たくさんの役割を担っているのが LD Nurse だと理解している。よい LD Nurse と言うのは, 病院にいても, 家族やソーシャルワーカー, 患者を巻き込んで, ケアを改善していく働きをしている。しかし, 現状ではイギリス全土の病院の半数で LD Nurse がいない。LD Nurse がその病院にいるかいないかで大きな違いが出てくると思う。

さらに, K 氏は“Treat me well”キャンペーンについて, 下記を語った。

2007年に悲劇的な事件が起こったことをきっかけに“Death by indifference”というキャンペーンが開始された。それは, 病院で LD のある患者が医療者によるネグレクトのために亡くなったという事件である。その調査の結果をまとめ, どうしたらそのような死を防げるだろうかというキャンペーンを行った。それから10年という区切りに, 今まで熱心に努力してきた NHS のスタッフに対してポジティ

ブなメッセージを発信するキャンペーンをしようということになった。こうしてはいけない, こうでなくてははいけないとたしなめるのではなく, これまでの取り組みを称賛しつつも, あと少しこうするとよい, というようなポジティブなメッセージを伝えるキャンペーンとして“Treat me well”キャンペーンを打ち出した。

2.8 Learning Disability Nursing と Social Care を統合したコース

イギリス中部の南ヨークシャー州の工業都市シェフィールドにある Sheffield Hallam University の Learning Disability Nursing and Social Care のコースリーダーで講師の Murphy 氏へのインタビュー内容を以下に記述する。

この大学では Undergraduate3年コースの LD Nursing とソーシャルワークを統合させたコースとしている。イギリスで LD Nursing とソーシャルワークを統合させたコースは, 本学, Ash field University と Fourfold University の3校である。これまで医療と福祉が分離されていたが, 健康問題は社会状況・環境や社会問題と強く関連するため, それらを統合させる必要があるという考えに基づく。学習する内容の対象は LD のある子どもから成人, 子どもをもつ世代, 高齢者まですべての年代である。Undergraduate3年コースで, LD Nursing とソーシャルワークの主要な科目に焦点をあてている。エビデンスベースの実践に関する研究, 政策, コミュニケーション, 人々や家族との協働の仕方, 異なるエージェンシーとの協働の仕方など, 専門家としての重要な内容を学ぶ。LD Nursing では臨床スキル, 行動マネジメント, Multiple condition, ソーシャルワークにおいては, ソーシャルワーカーとしてのマネジメント, 制度の問題, コミュニケーションの問題などについて学ぶ。2006年から開始し, 多くの卒業生を輩出している。附属の LD の子どもセンターには, LD のある子どもの神経学的な状態をアセスメントするために, 心理士, 精神保健専門家を含む専門的なチームがいる。また子どもセンターはレスパイトセンターであり, 週2~3日, あるいは週末, LD の子どもがこのセンターに宿泊し, 家族はその間休息をとるのに利用されている。

3. 考察および今後の課題

Mencap と Change でのインタビューでは, LD 当事者がインタビューであり, 非障害者のマネージャーかスタッフ1名が当事者をサポートする役割, 即ち補足説明をする役割で傍らに付き添っていた。障害者運動の理念として掲げられているセルフ・ア

ドヴォカシーを実践すべく、また障害者権利条約策定の過程で障害者共通の思いを示すスローガンとして用いられた“Nothing about us, without us”（私たちのことを私たち抜きで決めないで）の言葉どおり、当事者が自分の意思で自分の言葉で自分の経験と思いを語り、自分たちの活動を説明してくれた。Mencap は結果で示したプロジェクトの他にも様々なプロジェクトを実施しており、2010年には、助産師等の医療者向けの妊娠期から産後早期にわたる LD のある親支援のための教育プログラムも試験的に実施している⁹⁾。イギリス政府は、Mencap が2007年に発行した“*Death by indifference*”を受けて、LD のある人々となない人々との健康格差を調査し、LD のある男性は LD のない男性よりも13歳若く死亡し、LD のある女性は LD のない女性よりも20歳若く死亡していること、50歳前に死亡する者の割合は LD のない人は9%であるのに対し、LD のある人では22%と13ポイントも高いことを報告している¹⁰⁾。看護師・助産師においては、イギリスの看護職能団体である Royal College of Nursing は2017年に LD に配慮したケアに関するガイドラインを作成している¹¹⁾。また、イギリスの看護・助産登録協議会は卒業時に LD のある人々へのケア能力を修得していることを求めている¹²⁾。このようにイギリスでは LD のある人々への保健医療における不正を是正するために LD Nursing と LD Nurse が果たす役割は大きい。しかしながら日本では、LD Nursing

と LD Nurse についてはほぼ全くと言っていいほど知られていない。さらに公立医療機関においては、公的機関としての障害者への合理的配慮が義務化されているが、わかりやすい情報提供など保健医療現場における知的障害者への配慮の取り組み状況は施設によってばらつきがある。内閣府の「令和元年版障害者白書」¹³⁾の中の「保健・医療施策」の内容は「障害の原因となる疾病等の予防・早期発見」であり、障害に起因する医療格差に関する記述は見当たらない。2003年に、社会福祉基礎構造改革により、それまで行政措置であった福祉支援が、障害のある当事者が選択し契約するサービスとなって以降、知的障害者の自己決定と問題解決する力を育むことが知的障害関連学分野における重要な研究テーマの1つとなっている^{14,15)}。

近年の母体の高齢化に伴うハイリスク妊娠の増加、周産期・新生児医療の進歩により早期早産児の救命率は劇的に向上した。周産期医療従事者は「後遺症なき生存」をめざして懸命な努力をしているが、早産児では何等かの障害のある児の割合は依然高い。加えて、虐待や養育環境の不備は子どもの心身の成長発達を阻害し、知的障害の要因となりうる。このような日本社会の背景を踏まえ、今後は、LD Nursing における知見等を参考にしつつ、国内の知的障害に配慮した保健医療の提供に資する研究を関連分野の研究者とともに進めていきたい。

謝 辞

本調査にご協力くださった皆様に深く感謝申し上げます。

本調査は科学研究費助成事業 基盤研究 C 17 K12330の助成を受けて実施した。本稿の内容に関する利益相反事項はない。

注

- †1) イギリスでは知的障害 (intellectual disability) に該当する用語として learning disability が使用されている。日本語に直訳すると学習障害だが、NHS の learning disability の定義は、文部科学省の学習障害の定義とは異なり、厚生労働省の知的障害の定義に相応する。NHS は「新しい情報や複雑な情報を理解したり、新しいスキルを学習したりする能力が著しく低下している状態」で「成人前に生じる」としている。
- †2) mental capacity とは直訳すると「精神的な能力」であるが、イギリスの検察局コミュニケーション部門発行の“Supporting victims and witnesses with a learning disability¹⁶⁾” (LD のある被害者と証人のサポート) によれば、一言で言うと「ものごとを決める能力」であり、「与えられた情報を理解できる」「自己決定できるように情報を記憶することができる」「人に自分の決定を伝えることができる」の4つを行うことができることである。

文 献

- 1) 厚生労働省：平成23年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）結果の概要。
http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/seikatsu_chousa_c_h23.pdf, 2013. (2020.5.20確認)
- 2) 鈴木富士江, 森岡永吾, 忍博次：知的障害者の「結婚」とその援助に関する研究。北海道ノーマライゼーション研究, 10, 131-145, 1998.
- 3) MacLean K and Aunos M : Addressing the needs of parents with intellectual disabilities: Exploring a parenting pilot project. *Journal on Development Disability*, 16(1), 18-33, 2010.

- 4) Llewellyn G, McConnell D, Honey A, Meyes R and Russo D : Promoting health and home safety for children of parents with intellectual disability: A randomized controlled trial. *Research in Developmental Disabilities*, 24(6), 405-431, 2003.
- 5) Royal College of Nursing : Nursing specialism. <https://www.rcn.org.uk/professional-development/become-a-nurse#becomeanurse>, 2020. (2020.3.20確認)
- 6) National Health Service : Living with a diagnosis.: Learning disabilities. <https://nhs.uk/conditions/learning-disabilities/diagnosis/>, 2018. (2020.5.20確認)
- 7) Royal Mencap Society : *Treat me well: Simple adjustments make a big difference*. <https://www.mencap.org.uk/sites/default/files/2018-07/2017.005.01%20Campaign%20report%20digital.pdf>, 2017. (2020.5.20確認)
- 8) Mencap : *Death by indifference: 74 deaths and counting: A progress report 5 years on*. <https://www.mencap.org.uk/sites/default/files/2016-08/Death%20by%20Indifference%20-%2074%20deaths%20and%20counting.pdf>, 2012. (2020.5.20確認)
- 9) Leaviss J, Ewins W, Kitson D and Watling E : *Inclusive support for parents with a learning disability*. <https://www.bl.uk/collection-items/inclusive-support-for-parents-with-a-learning-disability>, 2011. (2020.5.20確認)
- 10) Heslop P, Blair P, Fleming P, Hoghton M, Marriott A and Russ L : *Confidential Inquiry into premature deaths of people with learning disabilities (CIPOLD) Final report*. <http://www.bristol.ac.uk/media-library/sites/cipold/migrated/documents/fullfinalreport.pdf>, [2013]. (2020.5.20確認)
- 11) Royal College of Nursing : *Dignity in health care for people with learning disability*. <http://www.rcn.org.uk/media/pdf-006605>, 2017. (2020.3.20確認)
- 12) Nursing & Midwifery Council : *Standards for competence for registered nurses*. <https://www.nmc.org.uk/standards/standards-for-nurses/pre-2018-standards/standards-for-competence-for-registered-nurses/>, 2010. (2020.5.20確認)
- 13) 内閣府 : 令和元年版障害者白書. https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r01hakusho/zenbun/pdf/s3_2.pdf, 2019. (2020.5.20確認)
- 14) 與那嶺司 : 知的障害のある人の自己決定とその関連要因に関する文献的研究—支援環境要因も含めた自己決定モデルを活用した実証的研究の提案—. 生活科学研究誌, 8, 171-188, 2010.
- 15) 今枝史雄, 菅野敦 : 知的障害者の問題解決能力の形成に向けた学習支援とその課題—生涯学習機会における学習及び評価方法の変遷を通して—. 東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ, 68, 441-452, 2017.
- 16) Crown Prosecution Service, Communication Division : *Supporting victims and witnesses with a learning disability*. https://www.cps.gov.uk/sites/default/files/documents/publications/supporting_victims_and_witnesses_with_a_learning_disability.pdf, [2009]. (2020.5.20確認)

(令和2年6月19日受理)

Activities of Learning Disability Nurses and Support for Parents with Intellectual Disabilities in England

Kinuko SUGIURA

(Accepted Jun. 19, 2020)

Key words : learning disability nurse, support for parents with intellectual disabilities, England

Abstract

This paper describes the information obtained through a field investigation on learning disability nursing in England conducted in March 2019, from published literature and from a website. The information consisted of “Activities of learning disability nurses and their evaluation by people with learning disabilities,” “Perinatal care systems for parents with learning disabilities,” “The present situations of learning disability nursing,” and “Activities of two charities for supporting people with learning disabilities.” The present researcher should conduct an interdisciplinary study on supporting people with intellectual disabilities in the clinical setting in Japan, referring to the results presented in this article.

Correspondence to : Kinuko SUGIURA

Department of Nursing
Faculty of Health and Science
Nagoya Women's University
Nagoya, 467-8610, Japan
E-mail : ksugiura@nagoya-wu.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.30, No.1, 2020 393 – 399)